

一般質問

12月定例会



小野 覚 議員

Q 飯南高校の普通科再編は

文部科学省は高校生の学習意欲を喚起するため、従来の「普通科」のほかに新たな学科を設置できるとした。

一つは、持続可能な開発目標など現代的な課題に対応するために、学際科学的な学びに重点的に取り組む「学際融合学科」である。
大学や国際機関との連携体制をとることが要件化されている。

もう一つは、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会の課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む「地域探究学科」である。
地元自治体・企業等との協力的体制や高校と地域をつなぐコーディネーターを配置することなどが要件となっている。
文部科学省では、早ければ令和4年春からの新設を想定しているとのことだが、飯南高校はどのように進むべきか、立地している自治体の長としての思いを問う。

A 地域とともにある学校に

町長 山崎 英樹

島根県では、平成31年2月に県立高校魅力化ビジョンを策定した。

この中で高校魅力化とは、生徒一人ひとりに、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むことを目指した地域社会との協働による魅力ある高校づくりであると定義づけている。

そして「生きる力」を育成するために、地元の住民や小中



飯南高校授業風景

学校、社会教育機関、地元企業などと高校魅力化コンソーシアム(共同体)を設置し、高校とよく話し合いながら「地域とともにある学校」を実現するとなっている。

本町では、飯南キラリ！ドリームアップ推進協議会を高校魅力化コンソーシアムに位置付けて、飯南高校の更なる魅力化に向けて取り組みを進めている。



飯南高校球技大会

このたびの文部科学省案にある「地域探究科」は、現在飯南高校で1年間やっている「生命地域学」を3年間やることにより、地域の課題に対応し、地域で活躍するすべを具体的に学び、地域を担う人材を育てる学科であると思う。

飯南町に資する学科が設置されれば、素晴らしいことだと思う。

一般質問

12月定例会



安部 丘 議員

Q シニアカーにも

安心な道路改修を

シニアカー(高齢者向け電動カート)が急速に普及しているが、必ずしも安心・安全に走行できる道路事情ではない。歩道の段差や傾斜、路肩の浸食や舗装のくぼみが点在しており、バランスを崩し転倒する危険がある。歩道と路肩の改修や路面の補修は急務だ。また、離合できない道の拡幅も求められる。



利用拡大が見込まれるシニアカー

道路整備には、児童生徒、高齢者や障がい者など、交通弱者への視点も重要。道路パトロールに歩行者の視点を取り入れ、通学路点検の情報も参考にし、これまで以上に適切な維持管理・補修を行うように努める。

A 適切な維持管理に努める

町長 山崎 英樹

緊急性・危険性が高いと判断される箇所は、路面の草刈りによる視界の確保。路肩の改良、側溝への蓋掛による幅員の確保など、これまで以上に適切な維持管理・補修に努める。

Q 本町の

ICT教育は

国は教育のICT化に向けた政策を矢継ぎ早に打ち出し、強力にインフラ整備を進めている。本町も今年度、タブレット等のインフラ整備を進めているが、前提となる「ICT教育の姿」が具体的に示されていない。

来年度から小・中学校で新たに何が始まるのか。町民に届くよう計画の説明を求める。

頓原中学校では、他校に先駆けICT教育を推進している。生徒は自在に機器を操り、ICT教育への適応振りは素晴らしい。教育委員会には、他の小中学校でも取組みを進めるための支援が求められる。教育長の考えを問う。

A 一人一台で活用

広がる

教育長 矢飼 斉

来年度から小学校では、1・2年生は、タブレット端末に慣れ親しむ授業が始まる。3・4年生は、文字入力やアプリ



タブレット端末を使った授業を見学する議員

ケーションを使った調べ学習を主にやっていく。5・6年生は、文章作成やプレゼンテーションなど表現力の育成に加え、プログラミング学習を行う計画。中学校では、表計算ソフトを活用したグラフ等の作成、オンラインでの課題の提出、教員への質問、会議ソフトで町内外に発信するグループ協議などを考えている。

タブレットが1人1台になることで、個々の状況に応じた学習を進めることができるようになる。